

<p>児童の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で「自分には、よいところがある」と答えた児童は、約7割であった。一方で、低学年と高学年で「自分には良いところがない」「ない」と答えた児童が3割いることが分かった。それぞれの学年に応じた教育活動を行う中で（当番活動などの役割）友達や教師に認められる場面は多い。それを自分のよさであると自覚することや知ることの思考判断力が低いと言える。</li> <li>・全校で「がんばりたいことや目標をもって、最後まで頑張っている」と答えた児童は9割を超えている。よって、自分のよさを伸ばしたり、発揮したりしたいと思う児童は多い。</li> <li>・道徳の学習で学んだことを生活の中でやってみようとしている児童は、全校で7割を超え、実践意欲の高さがあることが分かる。</li> </ul>		
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>視点1 上二小授業スタンダードの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳で学習したことを生活の中でやってみようとする児童は多い。年間指導計画の基、学級の実態に応じて内容項目のねらいに則した学習を行う。</li> <li>・授業を通して、これから自分には何ができるのか考えさせ、実践よく向上につなげていく。</li> </ul>	<p>視点2 読み解く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分には良いところがない」「ない」と答えた児童が3割いることを踏まえ、「個性」や「努力」「希望や勇氣」を学習する際には、学習後に「自分を知る」機会を設けていく。教材について話し合ったり、議論したりした後に、ふり返りの一環として、些細なことでも自分の良さであると自覚できる経験を6年間で養っていく。</li> </ul>	<p>視点3 「探究の時間」またはその他の教科との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よりよく生きていくためにどんな考えが必要なのか」、「地域の伝統文化はどんな意味があるのか」など、今の自分の価値観を構築させる素地としての学習になるよう、教材を設定していく。</li> </ul>
<p>その他 授業改善に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」では、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養う時間を確保するために、指導の効果を高める工夫をしていく。</li> <li>・心情を読み取るだけの授業にならないように留意し、教材を通して、自分事として自己を見つめ直し、よりよく生きようとする児童を育てる授業展開をしていく。</li> <li>・道徳的諸価値についての理解を基にして、自己を見つめさせていくために、教員が物事を多面的、多角的に考える授業の展開ができるような道徳観を教員が磨いていく。</li> <li>・他教科、学校行事を実践の場として捉え、実践意欲を養う教員側の見取りを大事にしていく。</li> </ul>		

